

⑫＜現代的な諸課題への対応＞ I C T 活用

ICTは「小さな研修会」を数多く やがて「大きな研修会」へ

【キーワード】 隙間の時間 自主的から主体的へ

【事例：職員がいる場所で、小規模な ICT 機器の研修会】

1 ねらい

「教師は常に、授業で、学級で、部活動で、生徒会で、使えるものは何かないか」と探している。そのため、数々の研修会が計画されるが、研修会の中で声を聞くと「この忙しいタイミングでいけないでほしい」とか、「この研修会は意味があるのか」等、企画者側と参加者側で、タイミングや内容がマッチせず、思うような効果が上がらない場面を見た事がある方は多いのではないか。

そこで、「隙間の時間」と「自主的な参加」に重点をおくことで、上に書いたようなミスマッチのない研修の計画をねらった。

2 内容

職員室など、周りに職員がいる場所の一角を借りて、小規模な研修会を行い、興味をもって近寄ってきた職員を巻き込んで研修会を行っていく。

人数が増えてきたら広い部屋をとり、時間を設定し、参加者を募って研修会を行う。

3 方法

(1) 職員室など、職員がいる場所で小規模な研修会をあえて行う。

(2) 準備するとよさそうなもの

① 研修会で囲むテーブルがあるとよい。(休憩用のテーブル等)

② 周りの職員が「何をしているのかな」「何かおもしろそうなことをしているな」と、思ってくれるような雰囲気をつくる。(テレビ画面に内容を映す、お茶がある、ワイワイ楽しそうな雰囲気… 等)

(3) 通りがかりに足を止めた職員を巻き込む。

① 足を止めた職員に、時間がありそうならば、そのまま研修会にはいってもらおう。

② 足を止めた職員が忙しそうならば、簡単な内容だけ説明し、「興味があったら、またここで研修会をやるのでぜひ一緒にやりましょう」と次回のお誘いしておく。

(4) 人数が増えてきたら、広い部屋を確保し研修会を行う。

4 校内研究の様子

「ICT 機器を活用した授業」の研修の例を挙げる。



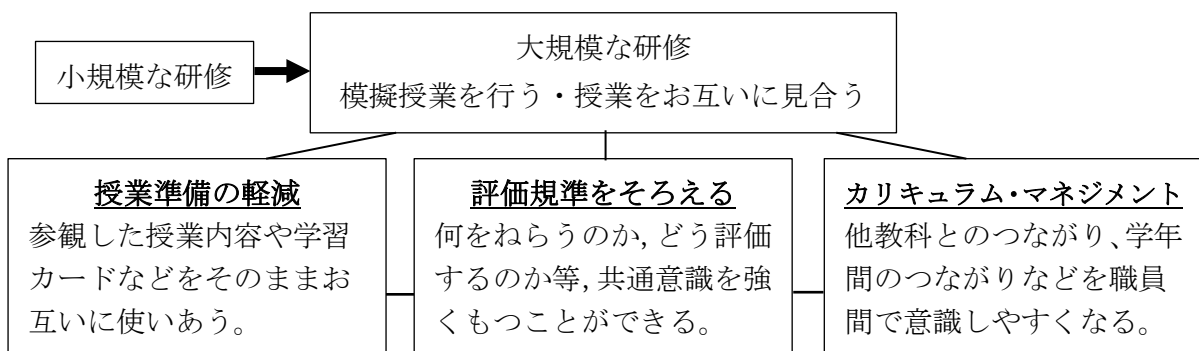
職員室のテレビを使って、ICT 機器の操作を学ぶ。テレビに映っている内容が、職員室にいる職員が全員見えるようになっていく。
画面だけ眺めながら脇を歩いていく職員、「なにやっているの?」と声をかけてくる職員、「そこはこうやるんだよ」とアドバイスをしてくれる職員など様々である。
まとまった時間を設定するのではなく、隙間の時間を使って、機会を増やしていく方が効果は上がりやすいように思う。



ICT 機器を活用した授業を行う職員が、模擬授業をやるので参加してほしいと提案した。
広い部屋を準備し、模擬授業を行って意見を交換しあうとともに、参加者は ICT 機器の活用方法のヒントをつかむ。
参加者は、入れ代わり立ち代わりで、様々な意見が交換された。
「この活用方法なら、他教科だけど私の授業でも使える。おもしろい。」など、前向きな発言が多くあり、研修の主催者の連鎖反応が期待できそう。

研修のまとめ

- ICT の使い方を学ぶだけでなく、使っている様子や授業への活用方法を学ぶことができるので、具体的なイメージがわきやすく、様々な教科へと ICT の活用が広がった。
- 研修の企画者側と参加者側で時間や内容がマッチしたものをねらったが、その他にも考え次第で、より効果的な研修にもっていくことができると考える。様々な視点や考え方をもって研修を実施するとより高い効果があげられるのではないかと。



(伸長期相当)

➤セルフチェック⑫-1

➤セルフチェック⑫-6